



「ジェイ・オー」第2号 2013.1.1 発行  
 発行者：株式会社協進印刷  
 編集者：JO 編集委員長 石井健太郎

# 百八十年計画の教育改革。 命がけで国を守る人を育てるために

全日本印刷工業組合連合会会長  
 六三印刷株式会社代表取締役会長  
 島村博之さん

●全日本印刷工業組合連合会

中小企業団体を根拠にする全国四十七都道府県の印刷工業組合からなる  
 連合会組織。全国に約六千事業所の会員を有する日本最大の印刷業団体。  
 各種セミナーの開催や共済事業の他、最近ではメディアユニバーサルデザ  
 イン、CSR等の社会的課題にも積極的に取り組んでいる。  
<http://www.ai-pia.or.jp/>



江森：あけましておめでとございませう。新しい年を迎え、二〇一三年はどんな年になるとお考えですか。

島村：気学でいうと昨年は世界的にリーダーが変わった年で、来年はそれらしいリーダーの下で全世界が新しい方向に動く年になると言われていますが、それはともかく、僕なりにどんな年になって欲しいかということをお話させていただけますか。

国家の役割は何かと考えると、何と言っても「国民の生命を守る」ということがあり、そのために食糧の確保、エネルギーの確保、領土の確保をしなければならぬわけですが、残念ながら今の日本はこの3つとも弱い状態です。図らずもこの度の衆院選の争点になってしまった原発の問題ひとつとっても、未だこの国はエネルギーを確保する方法すら決まっていらないのだということ露呈する結果となってしまいました。そのくせ選挙になると「原発イエスカノー

か？」というような二者択一を迫ってくるのはまったくおかしい。次の首相は政権維持のためではなく、エネルギーを確保するためにはどうすれば良いのかを明確に打ち出して欲しいですし、領土、食糧の問題もわかりです。

江森：極めて本質的な指摘だと思いますが、なぜ政治の世界ではそういう議論ができないのでしょうか。

島村：なんでかねえ…(笑)。政治家が政権争いに溺れてしまっているということでしょうか。生活のため選挙に勝たねばならぬという視野の狭い政治家が増えてしまった気がします。

江森：いまや選挙はほとんど就職活動のようですかね(笑)

島村：本来政治家は自分の生活のことなど気にせず、命を賭けて国を守るんだという気概のある人じゃないと、国家の運営なんて託せませんよ。で、そもそも論になっちゃうけど、いつも江森さんも言っているように教育がなくなって

いということに行き着くんですよ、結局。

時代には大きな波があつて衰退もあれば隆盛もあるわけですが、復活するには衰退時期の三倍の時間がかかるという歴史の法則があります。もう一度日本人に国とは何か、国家とは何かということ、きちんと認識させるような教育をしていかないと、エネルギーだろうが外交だろうがうまくいくはずがないのです。

江森：期せずして教育の話題になりましたので伺いたのですが、今やバブルの頃のように、偏差値の高い学校に行つて、名の知れた企業に入れば安心だなどということは何となく、企業も偏差値だけ高いような人材を必要としていないにも関わらず、教育の現場では未だに三十年前と同じことをやっています。これはおかしいことだと思つたのですが。

島村：それは親がわかつていないのだと思いますよ。教育とは何を教育することなのかというのをね。僕はアメリカに留学してました

から、アメリカという国は好きなんです。日本の次に好きな国はと聞かれれば、迷わずアメリカと答えます。でも空襲にしても原爆投下にしても、アメリカが日本に対して行なつた行為は絶対に許してはならないと思つています。アメリカが好きでこれからも同盟国としてうまくやっていきたいということ、戦争中にアメリカが日本にした行為を許すかどうかという問題は、まったく別の次元で論じなければなりません。そついう教育がまったくできていない。ただ数学や英語を教えられるという問題ではないのです。

江森：よく言われるように自虐史的な教育がいまだにされているということでしょうか。

島村：僕が知る限りでは今の若い人たちも戦争に至つた背景や理由などはまったくと言って良い程知りません。一方でテレビなどでは戦犯に罪を押し付けて自分たちの罪を逃れようとするおかしな教育がなされています。こんなに自

唐史観を叩き込まれては、外国に行つたつて対等な立場でのまともな議論などできるはずありません。

**江森**：しかし教科書にそういう表現をすると日本のマスコミが騒ぎますよね。これもおかしな話だと思えます。外国のマスコミが騒いで日本のマスコミが擁護するというのが普通ではないですか？

**島村**：そうだよね、何なんでしょうね、マスコミってというのは(笑)。

**江森**：「自分たちの国」という感覚が希薄なんじゃないか。

**島村**：もう十年以上前の話ですが、ある先生が東大の学生に「北朝鮮が攻めて来たらどうする？」という質問をしたのですが、全員が同じ答えをしたそうです。何と答えたとします？なんと「どこかの国に逃げる」です！

**江森**：一億総難民ですか！一億人の難民を受け入れてくれる国はさすがにないでしょう(笑)。

**島村**：こういう教育が大学に入るまでになされているというのは恐ろしいことです。国がなくなつたら命がないんだという、国と命はイコールなんだということをしつかり教育しなければなりません。

**江森**：『文明の衝突』の著者であるサミュエル・ハンチントンが「日本文明」を世界のどことも違う固有の文明として分類していますが、そこまで国に対する意識が薄いと「日本文明の消滅」という危機感を持たざるを得ません。

**島村**：その通りですね。それどころか既に消滅に向かって進んでいるのかもしれない。アメリカで発見された『静かなる戦争のための沈黙の兵器』という極秘文書には、国民を完璧な

世界に固有の「日本文明」が危機に瀕しています。



## 命を賭して誰かのために生きるといふ 考え方がそれが日本の心。

ならば企業に就職してから教育しなすしかなのかと思つています。私の言い方でいうと、これこそが「CSR」ということなのですが。

**島村**：それは大賛成です。心ある中小企業の社長はきちんと再教育をやっていますよね。しかし企業でできる教育には限りがあります。本当の教育はやはり小さい頃からやるべきです。

**江森**：そうなるとう国家の教育システム、つまりは政治が大事ということになりますか。

**島村**：政治は大事です。官僚主導をやめよう！などということではなく、まずは官僚を「命を賭けて国を守る」という気概をもった人の集まりにしないと。時間はかかりますがね。まさに百八十年計画ですし、そういうことが言える政治家が出てきて欲しいですね。

**江森**：地方から先が変わるといふ可能性はありますか。

**島村**：それは大いにあり得ると思います。橋下さんだつて大阪ですし、うねりを作るのは必ずしも中央ということではないと思います。日本人はこんなすごいということを九割の県民が

語れる県ができれば、そこから日本が変わっていくでしょうね。

何はともあれ教育ですよ。教育をしつかりやれば国民自らがいま何をしなければならぬかを客観的に把握できるようになると思つてます。しかし実際は、自分は批判をするだけで誰かがやってくれるだろうと思つている評論家ばかり。言葉なんていらぬ、とにかく自分がやらなきゃいかんのだという人が少ないですね。そういう意味では僕が全印工連の会長をさせてもらつて誇りに思つのは、いま一生懸命やってくれているメンバーは、自分のやっていることが何か仲間のために役に立つたらうれしい、それ以外のご褒美は何もいらぬと思つている人ばかりだということです。まさに本来の日本人としての価値観を持った人たちが集まつてくれたということがとてもうれしいのです。

**江森**：そういう生き方がかっこいいという価値観に変えて行きたいですね。

**島村**：そうですね、そういう思いが少しでも広まればいいですね。僕は国を動かすなんて立場ではないから、全印工連会長という任期の中で、お前がやったことは役に立つたよつて言ってくれる人が一人でもいてくれればと願っています。そのような小さな活動の積み重ねが、他の業界、地域、国と繋がっていくことで大きな力になると思います。

**江森**：最近特に政治の無力を痛感して、

「行ってきます」そういう教育を三歳までにきちんとやることでしょう。そして日本人に生まれてきて良かったんだよということをお教えることです。

**島村**：戦後が契機だとすれば六十年かかってダメになつてきたわけで、三倍かかるとすれば改革には百八十年かかるので、我々が生きているうちには無理なんですけど(笑)、やはり学校の改革、それも幼児教育でしょうか。朝起きたら「おはようございます」出かけるときは「行ってきます」そういう教育を三歳までにきちんとしてあげよう。そして日本人に生まれてきて良かったんだよということをお教えることです。

**江森**：我々の文明を取り戻していくための具体的なアイデアはありますか。

**島村**：戦後が契機だとすれば六十年かかってダメになつてきたわけで、三倍かかるとすれば改革には百八十年かかるので、我々が生きているうちには無理なんですけど(笑)、やはり学校の改革、それも幼児教育でしょうか。朝起きたら「おはようございます」出かけるときは「行ってきます」そういう教育を三歳までにきちんとしてあげよう。そして日本人に生まれてきて良かったんだよということをお教えることです。



●聞き手 江森克治(えもり こうじ)  
株式会社協進印刷代表取締役、本業の傍らNPO理事長なども務め、CSRの普及啓蒙、企業による社会課題の解決を後押ししている。全印工連CSR推進専門委員会副委員長、同産業戦略デザイン副委員長。

# 横浜を笑顔でいっぱい!

## 2012横浜サンタプロジェクト

十二月十五日(土)、NPO法人アクションポート横浜が中心になって開催された2012横浜サンタプロジェクトに、協進印刷環境会議メンバーで参加しました。参加者全員がサンタになり(心も、衣装も)、横浜を笑顔でいっぱいしようというプロジェクトです。

当日は、昼前から雨脚が強くなり、風も冷たく、あいにくのお天気でしたが、参加者皆さん

の熱量で、みなとみらい周辺は沢山の笑顔であふれていました。そんな中、私たちが加わった「お掃除サンタ」は、天候を理由に中止のムードだったのですが、学生を中心に「是非

決行しよう!」という声が上がりはじめ、大雨の中、十人単位でチームを組み、ゴミ袋片手に

ラしたみなとみらいの風景が、すこしだけ、鈍く映りました。きっと、深いねずみ色に覆われた空のせいだね。美化活動、継続しよう。



歩きはじめました。弾ける雰囲気の子供さん達とともに、勇んで下を向いて探してみようとあるわあるわ、ゴミだらけです。とくに、植込みの中からは、吸い殻・紙屑・コンビニの袋・空き缶...いつの間にか夢中になって拾い、雨のことでずっかり忘れていました。ちなみに、この小さな一角だけで四十五リットル入りのごみ袋を二つも使用することに。ふと、植込み越しに見た、いつものキラキラ



# 線路と街と

## 第二回 「子安駅」

文・写真 石井健太郎

弊社には、最寄りとする駅がもう一つ存在します。

京浜急行の子安駅。

大口駅と同様、機会が無ければ、なかなか利用しない駅かも知れません。

大口商店街、大口通り一番街という横浜屈指の長い商店街を抜けたところに、名も無い不思議な地下道が口を開けて待っているのですが、その地下道を抜けたところに、子安駅は突如現れます。JRの線路群に押し

されて遠慮がちに見えます

が、構内は広く、造りも古めかしく、独特の雰囲気醸し出しています。

子安駅は明

子安駅へと続く地下道の入口。上には横浜線が走っています。



治三十八年(一九〇五年)、京浜急行が神奈川駅まで延伸したのと同時に開業しました。子安駅のすぐ脇を高架線を通り過ぎて行くのは、前号で取り上げたJR横浜線ですが、京浜急行の方が三年ほど先輩になります。(余談ですが、鉄道線路は人間社会の常識とは逆で、後輩が先輩を跨ぐのが通例となっています。)かつては特急停車駅の一つとして君臨した子安駅でしたが、その座を検車区が付属する隣の神奈川新町駅に譲り、現在は普通列車のみが停車する駅となりました。

この例は全国で見られますが、主要駅からの降格は、駅の構えが大きいために、哀愁感の漂いかたが、他の駅とは違うのです。しかしながら、重厚なプラットホームと、上下線ともに備えられた待避線、武骨な架線柱からは、威風堂々、子安

駅の誇りが伝わってきます。引退間近のダルマこと800形は、子安駅にとってもよく似合います。子安という地名は、鶴見区東福寺にある子安観音が由来で、歴史ある地名だそうです。周辺には子どもに関係のあるお寺やお地蔵さんが多いのだとか。駅前の相応寺にも子育て地蔵さんがいます。

またこの辺りは、浦島太郎伝説でも有名な土地。浦島町や浦島が丘、七島といった地名のほかにも、子安通り一丁目の「浦島太郎の足洗い井戸」、仲木戸駅近くの慶運寺、別名「浦島寺」など、浦島太郎ゆかりのスポットが



京急らしき満載の子安駅のポイントレール。ここを全速力で走り抜ける姿は迫力満点。

## ありがとうの日 十一月の企画は「チロルチョコ」

毎月十日にステークホルダーの皆様へ感謝の気持ちを表す「ありがとうの日」。十一月は営業部の企画でお客様にオリジナルデザインのチロルチョコをプレゼントしました。甘いもの嫌いで有名な営業部長から突然「チョコを手渡され「えっ!」と驚かれる方、満面の笑みで受け取ってくださる方、様々な反応が楽しめますが、やっぱ



## ファイン工業株式会社



大口の魅力を紹介する「大口自慢」第二回の登場は、花粉でお困りの方の救世主、「ファイン工業株式会社」さんです。鼻の入口に塗るだけで、ムズムズがすっきり。主力商品の「鼻ぬぐる」は、愛用者が全国に広まりつつあるとか。百パーセント卵白から抽出される成分なので、これなら妊娠中の方やお子様も、安心して使うことができますね。こんな素晴らしい研究が、大口でなされていたのです。これからの季節、花粉でお悩みの方はお問い合わせしてみてくださいいかがでしょうか。



り女子は「チョコ大好き」ということを改めて確認したのでした。ステークホルダーの皆様、これからもよろしくお願ひ致します。

## ポイ捨て撲滅の方法模索中

会社前の歩道の清掃を毎週実施していますが、ゴミが一向に減らないことに閉口しています。歩道の植え込みに吸い殻、空き缶、カップラーメンの食べ残し：はては電子レンジの不法投棄まで。ゴミを捨てることも大切ですが、そもそも捨てないのが社会のルール。ゴミ箱の設置などポイ捨て撲滅の方法を現在模索中です。よいアイデアをご存知の方、是非是非ご教授願ひします！



福田社長のそのお人柄からも、効果を得られるかもしれせんよ。

ファイン工業株式会社  
横浜市神奈川区松見町一ー一九一四  
お問い合わせフリーダイヤル  
〇二二〇一六六七〇〇一  
<http://www.finekogyo.com/index.html>

## Paint Out 2013 好評発売中



昨年引き続き今年も弊社のオリジナル企画商品「Paint Out Diary」二〇一三年版が好評発売中です。今年には昨年版に加え、東京の地下鉄の全路線・全駅も掲載し、さらにパワーアップしました。昨年はほとんど「手売り」での販売でしたが、今年からは少しずつ書店にも置いていただけるようになり、神保町の書泉グランデさん、秋葉原の書泉ブックタワーさんの2店舗にて店頭販売しています。お近くにお寄りの節は、お手にとってみてください。またFacebookではPaintOutを使った旅の様を状況中継中。こちらもアクセスよろしく願ひします。  
<http://www.facebook.com/paintoutdiary>

## 東京を旅しよう。

東京を旅する塗りつぶしダイアリー「Paint Out 2013」  
好評発売中！ ■取扱店：書泉グランデ6F(神保町)  
書泉ブックタワー5F(秋葉原)

Paint  
Out

Diary for Strolling  
Around Stations in

FacebookにてPaintOutの旅、実況中。

<http://www.facebook.com/paintoutdiary>



B6版カバー付き(4色)248頁  
¥1,200(税込) ※送料別途

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

J〇第2号は、二〇一三年の新年号として皆様にお届けさせて頂きました。

各駅停車での旅行が好きな僕にとって、二〇一二年はまるで新幹線に乗せられたような、目まぐるしくもあつという間の一年間となりました。きつと今年も超特急。過ぎ去る駅を見届ける余裕もないまま毎日を通り過ぎては、また少し歳を重ねてしまおう。自分の為にも、一日一日を大事にできる二〇一三年にしたいと思っています。

そんな日々の中、会社と家の往復に疲れてしまったら、僕は旅にすることを勧めます。

旅と聞くと、遠くまで行かないといけないと考える人が多いようですが、そんな事はありません。「日常の行動範囲から、少し外れてみる。」これだけで充分に旅の意味を成してきます。いつも降りる駅の一つ手前で降りてみる。いつもとは違う道で帰ってみる。これを面倒くさいと思わずに楽しめる人は、旅の仕方を知っているのかもしれない。道中のハプニングや苦い経験は必ずと言って良いほど素敵な思い出として残りますし、こういうときの思いがけない出会いもまた格別です。

さあ次のお休みは是非「PaintOut diary」を持って、きつと自分にしかできない旅を楽しんで来ててください。

今号も沢山の方の協力を頂きました。お陰さまで読み応えのある紙面となり、編集長として感謝の気持ちでいっぱいあります。ありがとうございます。

皆様にとって素敵な一年になりますように  
協進印刷J〇編集長